

第5表 SI と併用できる非 SI 単位.

Name	Symbol	Value in SI Unit
minute	min	1 min = 60 s
hour	h	1 h = 60 min = 3600 s
day	d	1 d = 24 h = 86,400 s
degree	°	1° = $(\pi/180)$ rad
minute	'	1' = $(1/60)^\circ = (\pi/10,800)$ rad
second	''	1'' = $(1/60)'$ = $(\pi/648,000)$ rad
liter	l	1 l = 1 dm ³ = 10 ⁻³ m ³
tonne	t	1 t = 10 ³ kg

らみても、国際的な SI 単位の採択と実施はもはや時間の問題といえよう。

一方、日本においても、気象庁は WMO の動きに対応して SI 単位の一部実施に踏み切っているが、今後さらに hPa の採択などについて検討せざるを得ない情勢にある。日本気象学会においては、現在のところこの件に関して目立った動きはないようであるが、SI の基本理念である単位の統一化に十分の理解をいただき、会員の皆様も合せてこの実施と普及に御協力をお願いする次第である。



宇宙から見た気象——No. 4

富士山付近の風下に形成される筋状雲

浅 沼 勝 実*

関東南部では、冬の季節風下に筋状雲が伊豆半島、富士山、あるいは房総半島の風下に出来ることがある（榎間，1980）。口絵第1図、第4図はそれぞれ1982年1月7日、1982年2月1日の午後3時（日本時間）に富士山付近の風下に形成された筋状雲を示す GMS 可視画像である。口絵第2図、第3図は大島上空を南下している筋状雲、口絵第5図、第6図は大島へと南下して来る筋状雲をそれぞれ口絵第1図及び第4図に対応する時刻に大島元町にて撮影したものである。

一方、季節風下の大島近海には風のシアラインが頻繁に発生することが知られており、実際、両日とも筋状雲に沿うように風のシアラインが観測された。口絵の筋状雲やこの日のシアラインはどうかや富士山に端を発しているようだ。

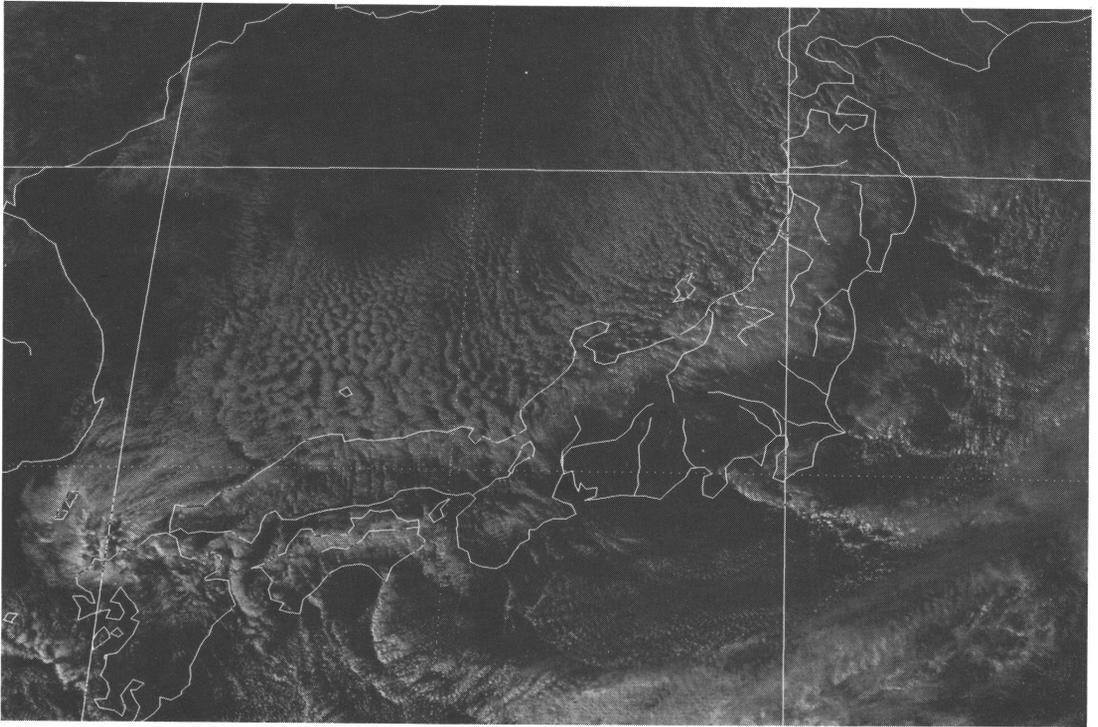
文 献

榎間道夫，1980：冬の季節風下での太平洋沿における筋状雲の分布，地理学評論，53，345-347。

* Katsumi Asanuma, 大島測候所.

宇宙から見た気象 富士山付近の風下に形成される筋状雲

(説明は450ページ参照)



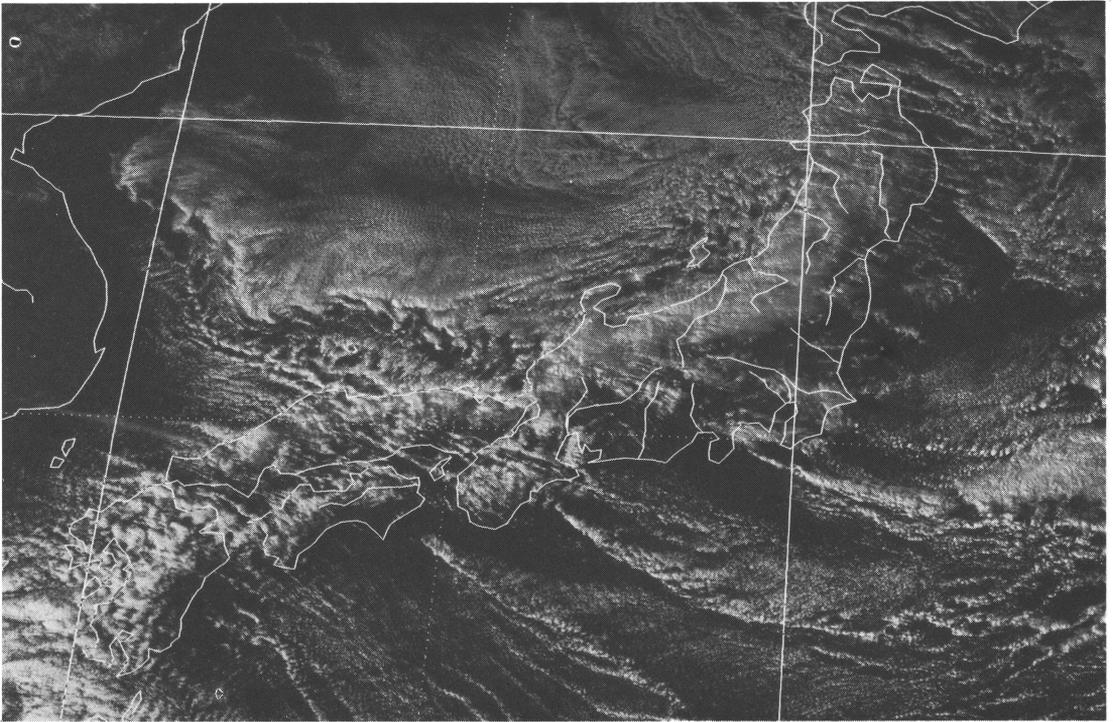
第1図 GMS視画像, 1982年1月7日午後3時(日本時間).



第2図 大島上空を通過している筋状雲, 1982年1月7日午後3時(地名はその方角を示す).



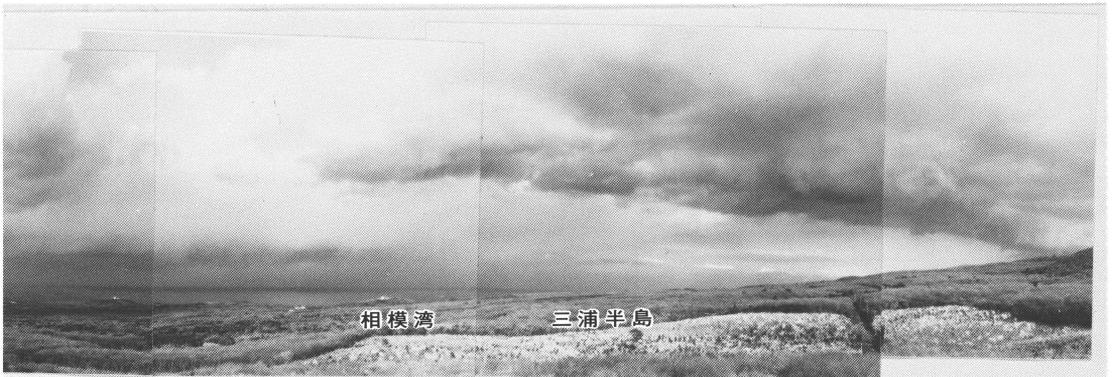
第3図 新島上空に達した筋状雲, 1982年1月7日午後4時.



第4図 GMS可視画像, 1982年2月1日午後3時(日本時間).



第5図 発達しながら南下してくる筋状雲, 1982年2月1日午後2時.



第6図 大島上空に達した筋状雲, 1982年2月1日午後3時.